

山梨大学 地域学習アシスト事業

新たな課題に対応できる実践的な能力を身に付けた教員の養成

文部科学省
「教育研究の質の向上の状況に係る注目事項」として評価 R1

文部科学省
好事例（グッドプラクティス）として評価 R5

地域学習アシスト事業とは？

「地域学習アシスト事業」は、山梨大学独自の取り組みとして、令和元年度にスタートしました。従来の教育ボランティアの活動をより充実させることで学生の実践力を高める取り組みです。学部生、教職大学院生等と大学教員がチームとなり活動します。

具体的には、小学校で支援の必要な児童へのサポートと、これについての「チームカンファレンス（以下、カンファレンス）」を大学で行います。学部生が小学校で活動する際には、大学教員が学部生に同行、学校との調整や学生に対して助言を行います。活動後には、大学教員、教職大学院生等とカンファレンスを実施し、子どもの行動の分析や、関わり方について意見交換しながら次に活動する際の方針を考え、実践に生かします。これを繰り返すことで、新たな課題に対応できる実践的な能力を身に付けます。



アシスト活動A：6月～10月頃

○学習面や生活面等の支援を行いながらアシスト先のクラスの実態をつかみ、児童や学級担任と信頼関係を築くことを目的として活動します。

毎週同じクラスで児童の支援や課題解決に向けた取組を進めていきます

アシスト活動開始！

学校・先生・クラス・児童をアシスト！

令和7年度 アシスト活動を終えての声

大学生

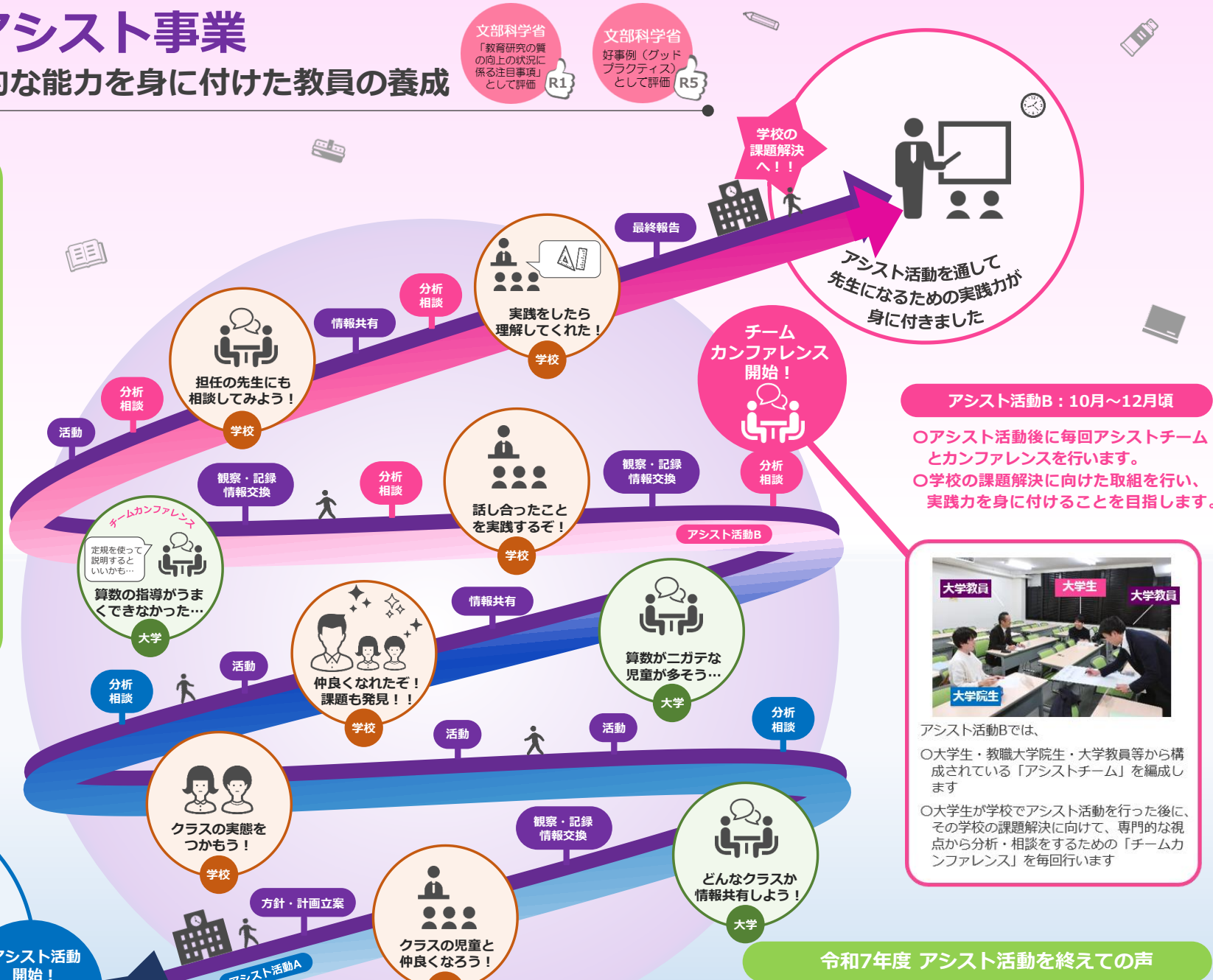
カンファレンスでコミュニケーションを取ることが難しい児童との関わり方を考えられたことが良かった。出会ったことのないタイプの児童とどう関わるか、相談する先生や先輩がいたことが良かった。

大学院生

活動での気付きから意見交流することで、自分の中にはなかった考え方やアイデアを知ることができた。知識が蓄積されていくのが分かった。

学校

アシストの学生さんと担任がクラスの児童のことを共通理解しながら、よりよい方法を考えていくことで、担任の成長にも繋がったり、学級経営の参考にもなったりする利点があった。



アシスト活動B：10月～12月頃

○アシスト活動後に毎回アシストチームとカンファレンスを行います。

○学校の課題解決に向けた取組を行い、実践力を身に付けることを目指します。



アシスト活動Bでは、

○大学生・教職大学院生・大学教員等から構成されている「アシストチーム」を編成します

○大学生が学校でアシスト活動を行った後に、その学校の課題解決に向けて、専門的な視点から分析・相談をするための「チームカンファレンス」を毎回行います